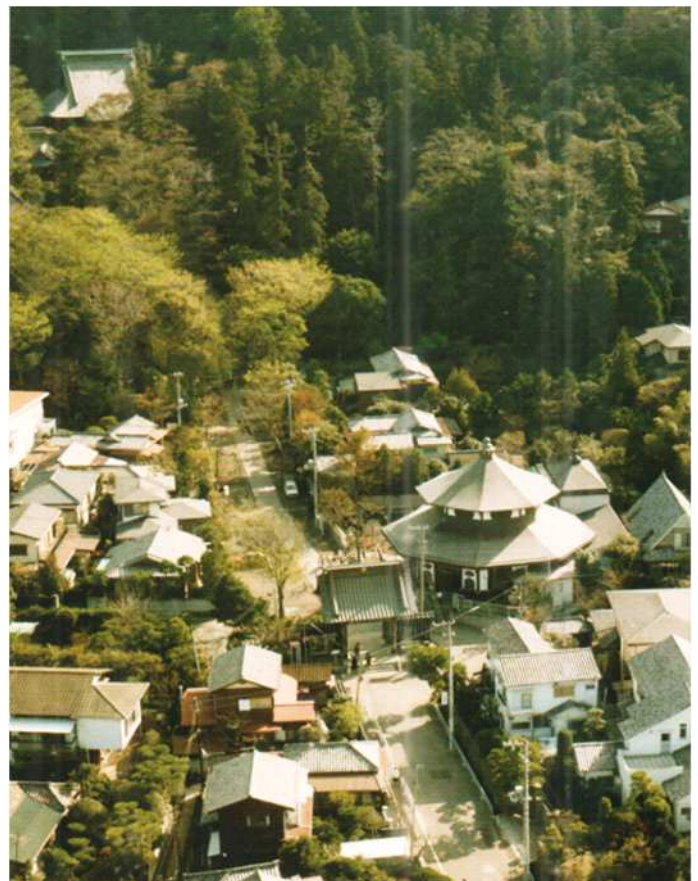


比企谷幼稚園 1937(S12)～現在

比企谷と妙本寺

鎌倉の小町大路を南に下って滑川に掛かる夷堂橋を渡った東側一帯（大町一丁目）は、古い鎌倉の風情を残している。夷堂橋のつきあたりに妙本寺があり、この辺りを比企谷といい鎌倉時代に源頼朝の有力御家人の比企能員（よしかず）一族が住んでいた。大河ドラマ「鎌倉殿の13人」で放映されたように比企一族は北条一族に滅ぼされた。ただ一人生き残った能員の末子能本が成長した後、許されて鎌倉に帰り、日蓮上人の弟子となり父能員の屋敷跡にお堂を建てたのが妙本寺である。日蓮宗最古の寺院のひとつ創建 1260 年



比企谷幼稚園の設立の経緯

1923（T12）年9月1日の関東大震災によって、妙本寺は多くの堂や門など多大な被害を受けた。当時妙本寺唯一の塔中大円坊も全潰し、是非復興をとの意見もあったが

ここに比企谷幼稚園が建てられた。その経緯は昭和 29 年 11 月 7 日発行 祖師堂改修記念出版『比企谷由緒下書』(附録 蟾溪雑話) 日雅 (島田勝存) 執筆に記されている。

以下 抜粋

「一軒の檀家すら無い大円坊が寺として将来永続するかどうか、近き建長寺に於いてはお寺として鎌倉中学を、又藤沢の遊行寺では藤沢中学を経営して居る。寺が学校を経営するそれ自体が、既に大なる布教なのである。妙本寺としては出来得れば学校だが、それには敷地も資材も持って居ない。蟹は甲羅に似せてと云ふ。せめて幼稚園位ならと心を決め、其の積りで那須技士に設計を依頼し、棟梁は関佐一郎氏で出来上がったのが現在の幼稚園で、それは昭和 12 年である。一中略一 之に関連して大円坊は妙本寺と合併して寺名は無くなり、建物と境内は学校法人に寄付したのである。斯くする事に因って幼稚園の永続を図った。ただ運動場が少し狭隘なので祖師堂境内を永久に無償で貸すと云うことになって居る。」

園舎の建設と特徴

1937 (S12) 年 4 月 8 日に妙本寺支院大円院境内に開園

した八角形の園舎は、仏の教えを基盤とする幼児情操教育の殿堂として法隆寺夢殿を模したといわれ、銅板一文字葺き二層屋根を持ち、花頭窓を配している。八角堂の平面中心に 9mの大きな吹き抜け天井の遊戯室があり、周囲には本尊と日蓮上人が祭られた祭壇と保育室、職員室がある。象徴性が重視された計画であるが、壁で仕切らずに現代のオープンスペース型の保育形態もとられている。1977 (S52) 年に新園舎が増築された。



比企谷からほど近いハリス幼稚園が 1925 (T14) 年に建てた復興園舎は梅鉢型だった。比企谷幼稚園はハリス幼稚園の梅鉢型園舎を参考に造られたとの説は残っているが外観は全く異なる。建物はどちらも鎌倉の貴重な歴史的建造物であり、街のランドマークである。因みに鎌倉市扇ガ

谷の岩船地藏堂は 2001 年に檜造りの八角堂に建替られた。

園の運営

比企谷幼稚園設立の発願者であり、設立に奔走した当時の比企谷妙本寺貫首島田勝存上人が初代園長に就任した。歴代園長は現在まで 8 人、片野玄涌 4 代目園長までは仏教者であったが、5 代目以降は立花幸子、中村邦彦、片山由喜子、吉田修二と民間教育者になり、妙本寺貫首は幼稚園理事長の立場に就いた。この間 2 名の女性が園長となったことに注目したい。

設立当時は 1 年保育であった。1938(S13)年 3 月第 1 回卒園児 35 名、その一人に『かまくら女性史』の編さん員だった郷土史研究家の清田昌弘がいた。



昭和 13 年 3 月第 1 回卒園式と保育證

当時の保育料は二円、入園料一円、保母の月給三十円、大学出のサラリーマンは五十円ないし七十円程度であった。今日と異なり園児の家庭層は上流家庭であった。41 年太平

洋戦争開戦に伴い出征家族もふえ、園長の意志で保育料を半額免除するなど経営面では独立できず、寺のバックアップに頼らざるを得なかった。戦局の激化で45年頃は一時閉鎖したが、終戦後すぐ再開した。49, 50年頃から入園希望者が急増し、運営は経済的に独立できるようになり、51年学校法人となった。ベビーブームの影響で入園希望者が殺到した時期もあった。現在は少子化で入園者は減少したが、2022年に至るまで85年間の卒園者総数は3,264名である。親子孫3世代通った家庭も少なくない。

保育の特長

特長の一つは保育の場が園舎園庭だけでなく、木々が茂る妙本寺境内すべてが園外保育・自然観察・運動の場として保育に活用され、感性を育てる環境を備えている。「山が近くにあるため、ヘビやカラスなどいろいろな動物が園に入ってきた」（佐藤賀子元保育士の思い出）「毎朝ののさま(日蓮様)に向かって合掌してお題目を唱え礼拝する。その後、園長先生が「オウチデアリガタイオカタハ・・・」の問いかけ



S20年頃の運動会

に園児全員「オトウサマ オカアサマ」と大声で答える。
一日も変えることなく行われ、宗教心の無い私は初めの頃は異様にさえ感じたが、いつのまにか心身とも自然な形で



受け止めていた」(藤沢以佐子
元保育士の思い出)敬う心を
養うことも教育の特長である。

1937年の開園以来時を刻
んでいた大時計が2011年
3.11の大震災で止まった。
同窓生の連携で再び動きだした。
当時副園長片山由喜子が
「大きな古時計」の替え歌を
作詞した。「大きなホールの中

時計 おじいさんの時計 75年動いてた とても働きものさ
だけどあの大地震の時に パタリと止まっ
たのさ 今はもう動かないその時計・・・」

「もう駄目だと諦めた時 奇跡が起こった
修理の達人現れて 時計をなおしたのさ・・・」「75年間 チ
クタク チクタク みんなと一緒に チクタク チクタク」

